

音楽科学習指導案

学級： 3年3組 28人

場所： 音楽室

指導者： 教諭 神園 律子

1 題材名 混声合唱の喜び

教材 混声三部合唱「絆」
混声三部合唱「君と歩こう」

山崎朋子 作詞・作曲

梅野知子 作詞・作曲

2 題材について

(1) 教材観

「絆」は合唱コンクールの3年生の課題曲として取り上げられることが多い。その理由としては、メロディが覚えやすく、ハーモニーを重ねる楽しさを味わうことができ、歌詞の内容に自分たち3年生の思いを重ね、一つ一つの言葉を大切に、歌うことができる楽曲だからである。また、音楽を通して、人とつながって生きることは、一人ぼっちではないということに気付いてほしいという山崎朋子さんの思いを、この楽曲を何度も歌うことで実感できる。

「君と歩こう」は自由曲として本学級が選んだ楽曲である。この曲はへ長調の温かい曲調で、サビの部分は、ピアノ伴奏のリズミカルな音型の上に歌われるメロディが、推進力を感じさせる曲である。また、前奏のアルペジオの始まりが前向きな気持ちを醸し出している。そして、曲中に出てくる休符や、何度も出てくるリズムと伴奏のリズムの重なり、女声のハミングを重ねる部分や男声だけのハミング、女声と男声の掛け合い、言葉とリズムの表現など練習を深めていく中で課題を発見し、合唱を作り上げていく面白さを味わえる楽曲である。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、1年次から1クラスの人数は他学年に比べて少ないが、クラスがよくまとまり、それぞれのクラスが切磋琢磨し合いながら成長してきた。特に表現活動が好きな生徒が多く、合唱活動に消極的な生徒はほとんどいない。1年次からアルトリコーダー演奏も積極的で、授業前から練習する生徒がいたり、吹奏楽部の発声練習をクラスの生徒と一緒に真似をしたりするなど、音楽を愛好する生徒が多く見られる。本学級においても同様に、積極的に音楽活動に取り組んでいる。

(3) 指導観

本題材は、合唱コンクールに向けての取組曲にもなっており、3年間の歌唱活動の中で、合唱の基礎や楽しさを学ぶとともに、表現の技能の定着を図るよう指導してきた。男声の多くは変声を終え、落ち着いた青年期の声になり、混声合唱を楽しむ姿が見られる。歌唱活動においては、1年次から楽曲イメージマップを活用し、音楽に関する共通事項を意識した楽曲分析を行いながら、どのように表現を工夫したいか、意見を出し合い学習を進めてきた。本題材の指導を通して、声部の役割や特徴を生かし、全体の響きとの関わりを考えながら表現を工夫し、よりよい合唱になるように主体的に考えさせていきたい。

3 題材の指導目標

- 声部の役割と全体の響きの関わりに興味をもたせ、意欲的に歌唱活動に取り組ませる。【関心・意欲・態度】
- 歌詞の内容や曲想の役割を感受し、どのように表現するかについて、思いや意図をもって、曲にふさわしい音楽表現を工夫させる。【音楽表現の創意工夫】
- 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱などの音楽を形づくっている要素を知覚し、旋律の歌い方、言葉の発音、音量のバランスの工夫、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。【音楽表現の技能】

4 題材の指導計画

(1) 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① 歌詞の内容や曲想に関心をもっている。 ② 声部の役割や全体の響きに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に、主体的に取り組もうとしている。	① どのように表現するか、思いや意図をもって、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫している。 ② 旋律の特徴、強弱の変化などを知覚し、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じている。 ③ 声部の役割や、全体の響きを感じ取って、音楽表現を工夫し、どのように、合わせて歌うかについての思いや、意図をもっている。	① 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした曲にふさわしい音楽表現をするために、必要な技術を身に付けて歌っている。

(2) 指導と評価の計画

題材名	時	指導内容	評価規準
混声合唱の喜び	1	○ 「絆」「君と歩こう」を聴き、歌詞の内容や曲想について感じたことを、楽曲イメージマップに書かせ、曲のイメージをつかませる。	ア-①
	2 3	○ 音程・リズムをつかむためのパート練習を行う。	ア-②
	4 5	○ 歌詞の内容や、曲想を生かした表現の工夫をさせる。 ○ 曲の構成や速さ、強弱の変化を生かした表現を工夫させる。	イ-①②③ ウ-①
	6 (本時) 7	○ 歌詞や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現を追究させる。	イ-③ ウ-①

5 本時の実際 (6/7)

(1) 教材名

「君と歩こう」 梶野知子 作詞・作曲

(2) 学習目標

- 混声三部合唱の響きに関心をもって、意欲的に歌唱活動に取り組むことができる。
- 声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした曲にふさわしい音楽表現を工夫しようとすることができる。

(3) 「判断基準」の設定

学習課題：声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするためにはどうしたらよいだろうか。

評価規準	「音楽表現の創意工夫」 ○ 楽曲をどのように音楽表現するか、思いや意図をもって声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした曲にふさわしい音楽表現を工夫している。
------	--

評価の場面	○ 展開時、どのように合唱をつくり上げたいか意見を出し合いながら練習を深めている場面
評価の対象	○ 練習活動中の観察(意欲的に合唱活動に取り組む姿勢, 声部の役割, 全体の響きについて思考したことを表現に生かそうとする姿)
判断の要素	○ 声部の特徴を捉えた旋律の歌い方や音色 ○ ユニゾンの歌い方や旋律のフレーズ ○ 同じリズムの旋律の歌い方 ○ 女声と男声の掛け合いの音色や強弱などをどのように表現したいかについて、自分やグループの思いや意図をもって歌う。
判断基準B	<p>声部の特徴を捉え、音楽に関する共通事項と関連付けて表現を工夫しながら歌うことができる。</p> <p>【予想される生徒の表現例】</p> <p>○ ソプラノは、優しく明るい音色でメロディを引き立たせる。アルトは、落ち着いた音色でソプラノを支えるとともに、ソプラノ、男声の歌声の音量のバランスをとることで調和させる。男声は重厚な音色でソプラノ、アルトを深い響きで支えようとしている。</p> <p>○ ユニゾンは、歌い出しの言葉の発音を揃える。また、どの声部も美しい発音で母音を揃える。</p> <p>○ ソプラノ・アルトのハーモニーは音程を揃え、響きのある発声で歌うとともに男声のメロディを引き立たせる。男声はメロディなので歌詞をはっきりと伝える。</p> <p>○ ソプラノ・アルトのリズムの動きが同じところは、リズムをしっかりと揃えるとともに音程とバランスをとる。</p> <p>○ 女声と男声の掛け合いは、お互いのメロディを聴きあうとともに、「君の～景色」「君の～言葉」という歌詞は、この曲のテーマになっているので、同じ音色で力強く歌う。 など</p>
判断基準A	<p>(判断基準Bに加えて)</p> <p>音楽に関する共通事項を踏まえて、全体の響きや楽曲の特徴の根拠を明らかにしながら、その楽曲のよさや美しさを述べて歌っている。</p>

(4) 研究の取組

ア「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

(7) 基礎的・基本的な知識や技能の活用を意識した課題設定

これまでの合唱活動で学んできたパートの役割や特徴を振り返り、それぞれの声の良さを生かして、どのような合唱にしたいかという課題をもたせる。

イ 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

(7) ポイントカードの活用

パートリーダーを中心にコーラスリフレクションシートを活用し、お互いの姿勢や表情、歌い方を確認し合い、よりよい表現につなげさせる。

(4) 表現の工夫や技能の定着を図る場面の設定

リズムカードを活用し、楽曲に出てくるリズムや美しい発音に繋がる発声を意識させ、発声の技能の定着を図る。

(5) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	研究の取組
導入	8分	一斉	1 「君と歩こう」の1番を合唱し、どんな合唱にしたいか発表する。 2 本時の目標を確認する。	・ 前時を振り返り、意欲をもって1番を歌わせる。	
			3 リズムカードを活用して発声練習を行う。	・ 本時の目標を意識させながら、パートの役割や特徴を確認させる。 ・ 曲に出てくるリズムや発音に注意させながら発声練習をさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現するためにはどうしたらよいか。</div> アー(ア) パートの役割や特徴を振り返り、課題を意識させる。 イー(イ) リズムカードと曲に出てくるリズムのつながりを意識させ、発声の練習をさせる。
展開	10分	グループ	4 パートごとに声部を生かして歌うところを話し合い、練習する。	・ 課題を明確にさせ、パートで歌い方を確認し合う。 ・ リフレクションシートを使い、歌い方の確認をさせる。	イー(ア) お互いの歌う姿勢や口径をチェックしながら歌わせる。 曲想に関することをチェックしながら歌わせる。
	25分	一斉	5 出てきた意見を基に、パートでの練習、女声パートでの練習、全体での練習を取り入れ、練習を深める。	・ 各パートの練習の変容を他のパートと合わせて確認したり、意見を出させたりして、深めさせる。	
終末	7分	一斉	6 練習を振り返り、全体を通して歌う。	・ 演奏を録画する。	
			7 合唱練習カードに自己評価を記入する。	・ 表現の変容を確認しながら本時のまとめをさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">それぞれの声部の役割を意識して、どのような音色・強弱・バランス等がよいかを考えて歌うことにより、全体の響きや音楽表現が豊かになる。</div>